

# ミッション企画書

作成日：2024年 04月 19日

校名：とふろう南校 企画者：吉川

<b>活動名：プッシュカート</b>		
本活動の着眼点		
姿勢が不安定な児童への介入として立案		
本人支援 5 領域とのつながり		
<input checked="" type="checkbox"/> 健康・生活	<input checked="" type="checkbox"/> 認知・行動	<input checked="" type="checkbox"/> 運動・感覚
<input type="checkbox"/> 人間関係・社会性	<input type="checkbox"/> 言語・コミュニケーション	
生活上の困り感 / 目的・趣旨(ねらい)		
<ul style="list-style-type: none"><li>・座っているとすぐ姿勢が崩れる</li><li>・跳び箱が苦手</li><li>・頻繁に転倒する</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・抗重力筋（特に体幹）の賦活</li><li>・体幹と上肢の協調動作獲得・向上</li><li>・体性感覚への反応強化</li></ul>	
活動の概要		
<b>【場所】</b> 各校活動室		
<b>【所要時間】</b> 約 3分/人程度		
<b>【人数】</b> スタッフ1人につき1人		
<b>【対象者】</b> ・独歩、独座が可能な年長児以上		
<b>【必要な道具】</b> ・マスキングテープ ・各課題に必要な道具（ボール紙・紙コップ・箱・カラーボールなど）		
活動の進め方		
<b>【スタッフの事前に準備する物・内容】</b> ・マスキングテープで床にスタートラインとゴールラインを示す		
<b>【進行方法・ルール】</b> 手押し車でコースを通り、課題を行う挑戦 (課題は選択制にしたり、無しにしたりしてもよい)		
1. 活動内容の説明		
2. スタートラインに児童が四つ這いで待機		
3. スタッフが児童の下肢を持ち上げてスタート		
4. 手押し車の状態で課題を行う		
5. ゴールしたらチャレンジ成功		

# ミッション企画書

## 【課題例】

- ・スタート前に覚えた数字や文字が書かれたボール紙の的を手で倒す
- ・提示された色のカラーボールを紙コップに入れる
- ・カラーボールを箱に入れる
- ・ボール紙の的を手で倒す

## 【下肢の持ち方】

体幹の角度が床と平行になる角度が最も目的に沿った効果が得られる。

脚が上がれば体幹への負荷が軽減され、下がれば腰部への負担が増加する（不適）。

持つ位置による難易度の変化は以下の通り

- |                    |   |                   |
|--------------------|---|-------------------|
| 1. 足を脇等に挟み、骨盤を手で持つ | } | 1. 脚を開き、間にスタッフが立つ |
| 2. 大腿部を手で下から持つ     |   | 2. 脚を閉じ、スタッフは足を跨ぐ |
| 3. 膝を手で下から持つ       |   |                   |
| 4. 脛を下から手で持つ       |   |                   |
| 5. 足首を下から手で持つ      |   |                   |
| 6. 足甲を下から手で持つ      |   |                   |

## 【進行上の留意点】

参加していない児童が実施中の児童やスタッフに近づかないようサポートが必要

【役割：進行、補助、+α】※スタッフ～名以上いると望ましい

2名から可能

実施：最低1名 同時実施人数に応じて必要数

待機対応：最低1名 児童数に応じて必要数

## スタッフの着目点

- ・手押し車での移動時に体幹がふらついているかどうか  
(ふらつきが強ければ下肢の持ち方で難易度を調整する)

## 活動を行う上での注意点

- ・レースではない為、原則計測を行わない
- ・達成できる課題を選択・提示する

## 予算

- |           |   |              |
|-----------|---|--------------|
| ・マスキングテープ | } | 100円均一（110円） |
| ・紙コップ     |   |              |
| ・カラーボール   |   |              |
| ・ボール紙     |   |              |

計 0円～

## その他

- ・「できた」「できなかった」よりも「挑戦した」「楽しんだ」
- ・言語での指示理解が難しい児童には手本を提示する

# ミッション企画書